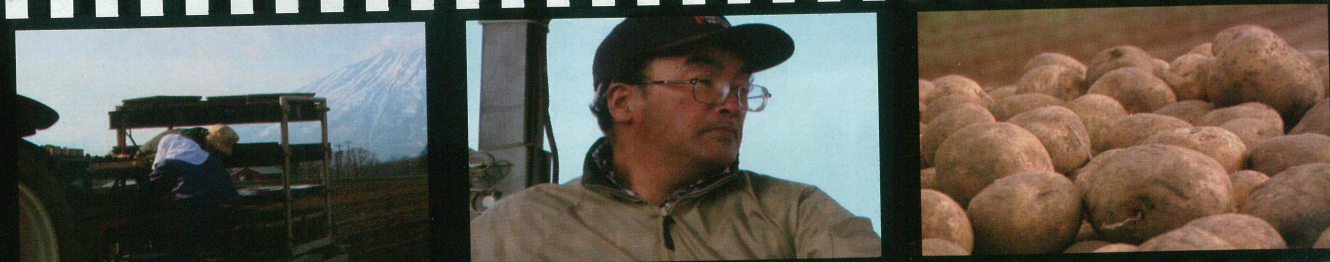
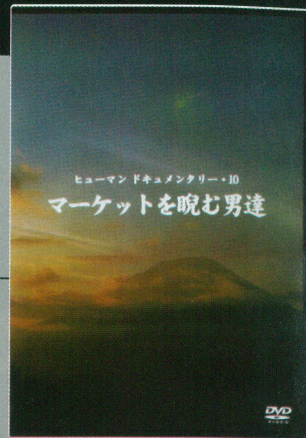


ヒューマンドキュメンタリー10作目発売!! マーケットを睨む男達

好評のヒューマンドキュメンタリー10作目は「マーケットを睨む男達」。今回は、農家自ら顧客とは誰なのかを知って、そのニーズを生産にフィードバックさせマーケットを意識した意欲あふれる農業経営を行ってる三人の男達を取り上げました。



「キタアカリを育てた男」北海道／玉手農場



「銀座に米を売る男」秋田／藤岡農産



「人参で勝負する男」千葉／キャロット Farm

ご注文は 農業技術通信社まで

- ①TEL ☎0120-555-184……24時間受付中、お気軽にお問合せください。
- ②FAX ☎0120-410-359……80ページのFAX オーダーシートにご記入の上、送信ください。
- ③「農業ビジネス」インターネットサイト……<http://agri-biz.jp>上の「農業SHOP」からご注文いただけます。

DVD 企画・制作・著作：スガノ農機株式会社 | 片面・1層ディスク / COLOR 45min | 価格：3,000円(税込) + 送料100円



11|12|13 作業場の隣のハウスで育てている茶や八丈柿、ユーカリなどの苗。



日本一の葉物屋へ

顧客第一主義を貫くことで、販売価格は自信を持って1俵(5kg)5000円をつけている。これは国内トップクラスの値段だ。周りからは高いと言われるが、それでも買ってくれる人がいる。年間の売り上げは11年度が2200万円、12年度が3000万円と順調に伸びている。あらゆる要望に応えるのは楽ではない。今年は休みなく働くことになりそうだという。生産者の仲間には「そこまでお客さんの要望に応えていたら、店がつぶれちゃうんじゃないの」と心配されることがある。でも、佐藤は今の姿勢を変えるつもりはない。

「お客さんの求めに応じていれば、つぶれることはないと思うんですよ」

彩の柿は6月1日、農業生産法人として認可された。第一弾として、福祉事業を展開する柿ゆうあいホールディングス(神奈川県横浜市)の株ゆうあい農園と連携することが決まった。同社が横浜市に所有する1万坪の農場で、障害者が8万本の柿と柿、ユーカリの苗木を作る。1年以上かけて育てるその苗木を今度は東京青梅に持ち帰り、彩の柿が周

辺の畑で成木にしてから伐採して最終商品に仕上げる。それを、ゆうあい農園で作っている野菜と一緒に神奈川県内で販売していく。

作業場の隣にあるハウスに連れていってもらおうと、そこにはすでにユーカリの苗があった。最も好きなこの植物を、今度こそ商品化しようと思っている。

ハウスではほかに狭山茶の苗木も育てている。生産と販売を計画しているという。県の生産組合が出荷する苗木は、主な流通先は生産農家向けであって、一般向けにホームセンターや直売所などに並ぶことはまずない。でも、生産農家でなくても家庭園で茶葉を育ててみたいという人たちはいる。

「柿だけじゃなくて、葉物で日本一になりたいんです」

初めて会った3月のセミナーでは「柿で日本一」だった目標が、3カ月もたたないうちに「葉物で日本一」と大きくなっていった。あっさりと言う言い切る佐藤とその経営がこれからどう変化するのか、とても楽しみに思える。

帰りの車に乗ろうとしたところ、佐藤が声をかけてきた。「窪田さん、また来てくださいよ」。もちろん私は「必ず来ます」と答えた。

(文中敬称略)